タトエバ

レイニーシュライン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
タトエバ

【Ｎコード】
Ｎ７１９３Ｄ

【作者名】
レイニーシュライン

【あらすじ】
例え話の得意な彼女「タトエバ」と「私」の、なんでもない日常のひとコマ。

そのいち（前書き）

ガールズラブを匂わせるような描写かもしれません。

そのいち

私はタトエバが苦手だ。
彼女はその名前の通りに、例えるのが好きだった。
例えばで始まる例え話を私は日に何度も聞くし、
〜のよう、という直喩も彼女の得意だった。

私はタトエバが苦手だ。
なんでもかんでも彼女は他の事で例える。
私などが思いつかないような事柄で、
ピタっとピースがはまるように綺麗に例える。
それはもう具体的でわかりやすく、万人受けする。
きっと、私とは違って博識だからだろう。
彼女の脳内から辞書でも発掘してやるのが、
私のささやかな願望でもあったが、
誰もツッコンでくれないので口にはしない。

私はタトエバが苦手だ。
私が旅先で見てきたもの、聞いたきた話、
素敵な出会い、面白い出来事、
そんなこんなをタトエバはやっぱり別のことで例えてしまう。
それは〜〜のようだね？
知るか阿呆。
楽しませようと持ってきたものは全部が全部、
似たようなものが既に彼女の中にあるんじゃないか。
甲斐がないったらありゃしない。

私はタトエバが苦手だ。
「私のことを例えるならばなんだい？」と、

戯れに聞いたならば、
そのくりっとした目を瞬かせて、
こきっと折れてしまいそうな小首をかしげて、
「何を言うのさ。
ボクは君ぐらい素敵なものも、
君以上に大切なものも、
この世にはありはしないんだから、
なにかに例えるなんて、
できるわけないじゃないか」
……なんて、
当たり前のようにのように言いやがる彼女に、
私は、きっと赤面してしまうんだから。

私は、タトエバが苦手だ。
嫌いって訳じゃないけど。

そのいち（後書き）

小説系ブログ「スナーク狩りにも雨は降る。」もございます。
興味のある方は是非そちらもご覧ください。
ＵＲＬはｈｔｔｐ：／／ｄ．ｈａｔｅｎａ．ｎｅ．ｊｐ／ｒａｉｎｙｓｈｒｉｎｅ／です。

そのに（前書き）

ガールズラブを匂わせるような描写があるかもです。

そのに

私が苦手とするタトエバではないが、例え話だ。
勿論、あの比喩表現の申し子のような彼女のそれと比較するような真似は未来永劫しないでいただきたい。

さて。
まず前提条件としてあなたは猫好き、いや別にそうでなくても一向に構わなくて、ええと、まあ要するに猫を見たら、翻弄されるとわかっていながら構ってやりたくなるようなそんな感じの気性だ、とする。
嗚呼、それも猫だからといって何でもかんでもというわけではなくその猫だから構いたくなるという、ええと、ああ、そしてここにその猫がいた、とする。
そこであなたは、翻弄されると知っておきながらやっぱり構いたくなるのだが、問題は猫の状態である。
件の猫は膝の上ですやすやと寝息を立てておいでで、畢竟するところお休みあそばされている。
もはやそこまでされると手を出せと誘っているのか、手を出さぬと信頼しているのか判断つかないものがある。
そう思わないだろうか。
思うだろう、それは。

現実逃避のために慣れぬ例え話など試してみたが、慣れないものには手を出すものではないということがわかっただけであった。
要するにいま現在、私の膝の上は、私を翻弄し続ける件の猫（賢明なる諸兄はすでにお気づきのことと思うが、あえて言おう）、畢竟するところタトエバの後頭部によって支配されているのである。
否、もはやこの無言の暴力は蹂躙といってもいいかもしれない。

起きているならば私は適当に言い繕ってどけることもできただろう。だが用意周到なことに、彼女は私が午睡から目覚めたときすでにそこにぐっすりとスリープモードで鎮座ましましていたのである。彼女が如何なる思考の果てにそのような暴挙に打って出ることを脳内会議にて承認せしめたのかは不明だが、あまりにも迅速な行軍・制圧である。抵抗の余地もない。

私の気持ちを知っていてなおそれをしているというのならば恐るべき悪魔なのだろうが、ほぼ間違いなく彼女は知るまい。タトエバは多少普通ではないとはいえ、その方面に関しては普通なだけでなく鈍感の域にいる。

よもや、私が彼女に対してそのような感情を抱くなどとは、日本人的性感覚を持つ彼女が気づくはずもあるまい。

私はなんだか、急にそのことに腹が立って、何も知らず寝入っている彼女の唇に自分のそれを、

「と、いう夢を見たんだよ」
そう、そのくりっとした目を瞬かせて、
こきっと折れてしまいそうな小首をかしげて、
楽しげに語り終えたこの子猫に、
私はどう反応すればいいのだろうか？

そのに（後書き）

小説系ブログ「スナーク狩りにも雨は降る。」もございます。
興味のある方は是非そちらもご覧ください。
ＵＲＬはｈｔｔｐ：／／ｄ．ｈａｔｅｎａ．ｎｅ．ｊｐ／ｒａｉｎｙｓｈｒｉｎｅ／です。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7193d/

タトエバ

2011年1月9日02時51分発行